

平成 27 年 6 月 14 日

平成 27 年度運営方針(案)

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議（以下「P会議」という）は、「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」に掲げる本市の環境ビジョン「山にみどり・川に清流・谷に風・空に星」「自然と和して発展するまち・人のくらし」「みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの」の実現のため各プロジェクト活動を通じて行動します。

本年度は、市補助金が半減し、今までと同様な予算支出は困難なことから、支出や活動の内容を見直し、運営してまいります。支出内容を見直す中においても、継続して取り組んでいる「つなぐ・伝える・行動する」活動を更に発展させるとともに、「**持続可能な環境パートナーシップ会議**」とするための活動に取り組みます。

具体的な行動として

1. 「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2013」を推進します

市内で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる連携に向け推進します。本年度は、P会議及びプロジェクトチームの活動の充実（**行動する**）に併せ、その活動を広く発信（**伝える**）し、次代につながる（**つなぐ**）成果の見える行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

(1) P会議及びプロジェクトチームの環境保全活動の充実を図ります（行動する）

「アジェンダ 21 ながの」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者と、共催や参加などを通じ連携を図ります。

① 主催事業の開催

昨年度は、スペシャルプロジェクトチームにより、団体や企業などの環境保全活動を将来の世代に伝え、共に活動するきっかけとなることを目的として「ながの環境活動コンテスト」を開催いたしました。審査員には、高校生や大学生の若い世代による環境保全活動について活発な意見交換がなされました。

本年度も、団体、企業やP会議プロジェクトチームなどの皆さんの環境保全活動を「つなぐ・伝える・行動する」場として、各環境保全団体の活動の相互理解が推進され、更にはP会議の新規会員の拡大されるよう充実した事業を開催します。

② 他団体との共催や参加

環境保全団体との共催や各団体の環境保全活動を支援や参加を通じて、若い世代や市民・事業者などに環境保全活動を広く発信し、環境保全活動への参加を呼び掛けます。

(例) 信州環境フェア、ながの環境フェア、環境こどもサミット、
ライトダウンキャンペーン など

③ 理事会とプロジェクトチームは、連携を強化し、一体となって環境保全活動を進めていくため、合同会議を、随時開催いたします。理事会がプロジェクトの活動を把握し、助言することでプロジェクトチームの充実を図ります。

(2) ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します (伝える)

P会議全体の活動やプロジェクトチームの活動状況と活動結果を定期的にまとめ、ニュースレター(手をむすんで)やP会議ホームページなどを通じ、市民や団体また行政などに広く情報発信し、環境保全の啓発に努めます。

(3) 次代につながり成果の見える活動を行います (つなぐ)

市補助金の大幅な減額により、予算の支出は制約されますが、目標となる環境ビジョンを見失うことなく、前向きに成果の見える活動を行います。

2. 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

(1) 組織の拡充を図ります

充実した環境保全活動を行っていくためには、市民・事業者、学者・活動家など、多様な知見・能力を有している人間の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会など、それぞれの立場で、仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

また、新たに、P会議のプロジェクトチームにふさわしい活動を発掘し、組織拡大を目指します。

(2) 充実した活動をするための活動資金を検討します

充実した環境活動を行っていくためには、活動資金の確保も大切です。市の補助金ばかりに頼るのではなく、P会議の活動を多くの方に理解いただき、自然保護支援団体の補助金や企業等からの協賛金を検討します。併せて、P会議の事業収益についても検討します。